

# 2024年3月期 第2四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2023年11月14日

## 注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2024年3月期第2四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

# 業績概要<sup>1</sup>

[億円]	24年3月期 1Q	24年3月期 2Q	対前四半期
	売上収益	2,511	
営業利益	▲1,308	▲1,008	+300
マージン	▲52%	▲42%	+10pt
当期純利益	▲1,031	▲860	+171
マージン	▲41%	▲36%	+5pt

## 補足情報

減価償却費及び償却費 <sup>2</sup>	943	869	▲74
PPA影響額 <sup>3, 4</sup>	▲40	▲16	+24
法人所得税費用	▲435	▲364	+71

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第2四半期におけるEBITDAは、営業利益▲1,008億円に減価償却費及び償却費869億円を加算した▲139億円となりました。
3. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。

4. 営業利益からPPA影響額を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第2四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲1,008億円からPPA影響額▲16億円を除外した▲992億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲860億円からPPA影響額▲16億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲849億円となりました。

# ハイライト (1/2)

## 足元の実績及び動向

	24年3月期 1Q	24年3月期 2Q
出荷量 <sup>1</sup> (QoQ)	10%台半ばの 増加	10%台前半の 減少
販売単価 <sup>1</sup> (¥, QoQ)	1桁%台半ばの 下落	1桁%台後半の 上昇

1. 記憶容量ベース

- 第2四半期連結会計期間は、前四半期比で出荷量が減少した一方、販売単価は需給バランスの改善、円安の進行及び製品ミックスの影響により上昇した結果、売上収益は減収、営業損失は縮小となった
- ドルベースでの販売単価は1桁%台前半の上昇となった

## 製品開発・技術開発

- e-MMC Ver.5.1準拠のフラッシュメモリ製品のサンプル出荷

## ハイライト (2/2)

### 市場動向及び見通し

- フラッシュメモリメーカー各社による生産調整の継続と顧客の在庫消化の進展を受けて需給バランスの改善が続いており、販売価格は下げ止まっている
- PC及びスマートフォン向け需要は、顧客の在庫水準正常化と価格弾力性による大容量メモリ搭載モデルの増加に加え、来年はPC及びスマートフォンの出荷台数が増加に転じる見通しであり、回復が続くと見込まれる
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、マクロ経済の不確実性によるIT投資の減少と、汎用サーバー需要の弱含みが続いており、回復は来年前半以降になると見込まれる
- フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 需要動向に合わせた生産調整と販管費抑制を継続し、市況に関わらず確実に利益を生み出すべく、製造コスト削減、研究開発・製品開発のポートフォリオ見直し及び注力製品の開発加速に取り組む

**KIOXIA**